

を活用して①介護予防の充実や高齢者入浴事業の復活②特別養護老人ホームや老人保健施設の増設に加え③障がい者のグループホームと就労支援施設等を整備すべきだ。

**市長**「積立金があるから使え」はおかしい。安定的な財政運営にとって非常に貴重なお金だ。

**幸野**市長は「消費税は社会保障に目的化すべき」と言っていた。なのに、介護予防や高齢者福祉を削っている。介護保険料も大幅に値上げしている。予算の使い方を変えるべきだ。

**幸野**◆**保育園・学童保育・学校の教室**◆人口が増加する中で、深刻な公共施設不足を招いているが、「人口は減るから公共施設は統廃合する」としている井澤市長の責任だ。人口の増加に合わせて、保育園や学童保育所、学校の教室、スポーツ施設、公園、駐輪場を増やすべき。

**市長**人口が増えているが生産人口が増えているわけではない。高齢者が多くなる中で、財政にとって好ましい状況ではない。それに伴って高齢者施設や子ども達の施設は増やしていかなければいけない。その努力を続ける。

**幸野**◆**子育て支援**◆①子どもの医療費は18歳まで無料に②廃止された低所得世帯の高校生に支給してきた奨学金制度の復活③低所得な小中学生への就学援助制度の拡大を求める。消費税の財源はこういう政策にこそ使うべき。

**市長**財政規律を守っていかなければ後世にツケを残すことになる。責任ある立場でそういうことは申し上げられない。

**幸野**◆**環境とバリアフリー**◆を重視したまちへ。21世紀は環境の世紀だ。ところが来年度か

ら「環境部」を廃止して「建設環境部」と「まちづくり部」に再編する予定だ。21世紀に入り「環境部」を廃止する自治体は国分寺市だけではないか。独立した「環境部」に戻すべき

**市長**環境部と建設部を一緒にすることで非常に連携がとれる。統廃合をすることで福祉の方に職員がさける。環境を軽視した訳ではない。

**幸野**西国分寺駅の東口と恋ヶ窪駅の東口の開設を求める。代表質問を通じて、4年前の所信表明が守られていないことが明らかになった。市民目線ではない井澤市政は転換するしかないことを述べて代表質問を終わる。

## 北口再開発に投じた資金が戻る先を見据えて



無会派(無所属) 甲斐 よしと

**甲斐** 来年度予算案の目玉は国分寺北口再開発清算で保留床処分金150億円の残り135億円が歳入として見込まれる点だが、このうち61億強で、現在ある北口再開発事業の借金136億7,490万の半分弱を返済しても75億1,968万の借金が20年に渡り残る事を重く考えれば野放図には使えないが、庁舎建設基金に21億円積み根拠は？

**市長** 財政調整基金に43億積み増して60億近くにして、建設手法も建設費も積算していないが、50億円以上の建設費がかかるだろうから40億以上の基金にと積み増した。

# 一般会計予算案に対する討論の要旨

3月21日の本会議で平成29年度一般会計予算案に対する表決に先立ち、各会派等から賛成・反対の討論が行われました。内容は、各会派等が一定のスペース内で自由にまとめたものを討論が行われた順番で掲載しています。

## 賛成討論

### 北口再開発完成により財政基盤の強化に成功



新海 栄一

自民党国分寺市議団

平成29年度一般会計予算は、国分寺史上最高の495億8,810万円が計上されており、特別会計と合わせると総額979億8,079万円の大型予算となっている。一般会計では前年度に比べて21.4%の増、総額では38.4%の増となっている。

**北口再開発の成功で各種基金、福祉予算が充実**

予算規模が大きくなった要因は、平成30年3月完成予定の国分寺駅北口再開発ビルの保留床処分が成功したことで、処分金150億円(保証金15億円は入金済み)が今年度入金されることによる。これにより財政調整基金の約43億円をはじめ、各種基金に合計74億円が積み立てられ未来への備えが計られている。北口再開発の成功は29年度の事業にも大きく反映され、お年寄り、子供達やお母さん方、障害を持った方々などに対する福祉予算は全予算の48%に達しており、大変思いやりのある充実した内容となっていることを高く評価したい。

**再開発は防災都市づくりを目指してスタート**

国分寺駅北口再開発事業は昭和54年3月、当時の塩谷市長によって、防災都市づくり構想公共施設整備構想、駅周辺土地利用構想をはじめとする6つの構想を柱とした「国分寺駅周辺整備基本構想」が作成されたことにより正式に開

始された。その後この構想は本多市長に受け継がれて実現に向けての交渉が進められた。

**反対派の市長当選で混迷をきわめ大幅な遅れ**

北口再開発の完成が40年もの長きにわたった最大の原因は、平成9年の市長選挙において再開発反対を公約にかかげた山崎市長が誕生したことにある。これにより再開発は一時中断され、大きな遅れが生じるようになった。再開発の遅れは商業活動を低下させ、市内消費者の流出率は70%を越し、周辺の空き地の未利用による損失を含めると、年間300億円近くの経済損失が発生していた。この経済損失は毎年の国分寺市財政を苦しめ、北口再開発の遅れは福祉、教育、道路整備をはじめとする諸施設への大きなマイナス要因となっていた。山崎市長は結局は再開発反対の公約を撤回したが、一時中断の影響は極めて大きく、再開発は難航することになる。

**星野、井澤市長により大きく前進完成を目指す**

山崎市長の後を受けて誕生した星野市長は、難航していた北口再開発を進めるため、再開発ビルと駅前広場を入れ替えるという大胆な計画変更を行い、さらに時代の流れと共に、再開発ビルは商業主体から住宅主体の高層ビルへと変更され、市長も井澤市長に交代し、完成に向けて着々と建設が進められている。

**井澤市長による充実した福祉政策を高く評価**

あらためて29年度予算を見ると、老人医療費、心身障害者福祉費、児童保育費、学校施設整備費など福祉、教育関係の多くの施策で大幅な増額が計られ、充実した内容になっている。特に保育については待機児童解消のため、4月には3か所の保育所を開設、2か所の既存保育所の

甲斐) 使い途が絞られない財政調整基金に積む段階だ。この10年間弱、北口再開発のために、他事業、とりわけ公民館事業費の半減をはじめ犠牲を伴った。未来を見据えた新事業も極めて少なくしか立ち上げられていない。いわば北口再開発のせいで市民が我慢をさせられてきたと言えよう。前市長期から今日まで、北口再開発の拠出が他の事業、財源へ、しわ寄せを生じさせてきたと否めない事に御共感なされるか？

**市長** この事業に必要な財源は色々な意味で国分寺市の財政状況の逼迫につながっている部分は多少あったのではないかなと思う。  
**甲斐** 来年度当初予算とは言わずとしても今まで我慢させられてきた新規も含めた事業も将来を見据え充実させてゆくべきだ。また、新庁舎について昨年3月にコンサルタントに発注した「新庁舎に係る基礎調査書」がまとめられたにすぎず、今日まで市民に問う機会どころか情報発信すらなされていない。やはり市民の声を聞いて市民参加で十分な時間をかけた検討がなされるべきだ。例えば世田谷区では今後10年間かけて場所から何から何まで区民参加でゼロベースから検討してゆくことが表明されました。片や渋谷区では唐突に公会堂を含め高層計画を一方的な表明が反発を受け頓挫という報道もあった。

**市長** 現在、私の発言は庁舎を建設しなければいけないにとどまっている。多くの市民の方々の意見を聞き集約しなければというお話にとどめて、今のところ前提はありません。

拡充を進め、平成30年までにさらに1か所の開設を目指すなど、待機児童の解消に努めている。学童保育所については4月に2か所を開設、さらに七小敷地内にも開設予定。障害者対策では視覚障害者の駅ホームでの転落事故を防ぐため、西武鉄道の協力を得て国分寺駅にホームドアの設置を目指す。学校整備ではエアコンの設置が4校、トイレの改修が3校で進められ、二中の外壁、屋上防水工事、九小、十小の増築工事も実施される。防災対策では防災用品や防災備蓄医薬品の整備、拡充が計られている。高齢者の自動車事故を未然に防止するため、運転免許証を自主返納する高齢者に対して、ぶんバスの無料パスを支給する新たな事業も開始される等、多くの施策を着実に実現できる充実した予算であると高く評価して賛成討論とする。

## 賛成討論

### 長期計画初年度一 次なる時代の新予算に期待



木村 徳

国分寺政策市民フォーラム

10年ぶりの長期構想・長期計画初年度の予算という位置づけになる29年度予算は一般会計で約495億円と、表面上史上最高額となっているがその内、135億円が国分寺駅北口再開発に関わる保留床処分金としての臨時的歳入であり、その額を差し引けば実質的には約360億円の予算で、これは10年以上前の規模に相当し、非常

次ページに続く▶